

国立大学法人 九州工業大学

環境報告書
審査所見報告書

一般社団法人エネルギーマネジメント協会

Report No.2015001

Revision No.01

組織名	国立大学法人 九州工業大学		
〒・住所	〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1 (戸畑キャンパス) 〒820-8502 飯塚市川津680-4 (飯塚キャンパス) 〒804-8550 北九州市若松区ひびきの2-4 (若松キャンパス)		
電話番号	093-884-3024	FAX 番号	093-884-3034
受審責任者	国立大学法人 九州工業大学 学長 松永 守央		
連絡担当者	国立大学法人 九州工業大学 会計課総務企画係		

審 査 員 編 成	審 査 員 : 松田 真也 審 査 員 : 専 門 技 術 者 :
-----------------------	---

検証対象の 環境報告書	2014年4月～2015年3月	国立大学法人九州工業大学 環境報告書2015
----------------	-----------------	---------------------------

審査面談者	所属・職位	審査面談者	所属・職位
三谷 康範 様	グリーンイノベーション実践教育研究センター長	脇坂 港 様	生命体工学研究科 生命機能応用工学 准教授

審査結果の概要

情報の評価

『環境報告書 2015』は、国立大学法人九州工業大学の戸畑、飯塚、若松の全てのキャンパスにおける事業活動、教育・研究活動を対象範囲としている。九州工業大学は、“質の高い教育、科学に裏付けられた融合技術や境界領域の創成、地域社会との連携と調和、社会に対する大学の責任を重視した運営”を基本方針として活動しており、環境マネジメントにおいて環境方針を定め目標の実現に向けて継続的に行動している。

環境報告書では、九州工業大学の環境への取組情報を開示しており、“環境保全に必要な環境技術の研究・開発、教育、より環境によい地域づくり及び持続社会の構築への貢献等”の活動を紹介している。2012年4月に発足したグリーンイノベーション実践教育研究センターは、学内全体の“環境・エネルギーに関する教育・管理・研究”をミッションとしており、人材育成を含む教育研究ならびに環境改善・省エネルギー化を組織的に推進している。特に教育面において、グリーンイノベーションリーダー育成コースの開設により、次世代を担う環境・エネルギーに関するリーダー的人材を輩出するなど活動の定着化が図られている。さらに、学内教員のレクチャー、教員を交えたグループディスカッションなど参加教員を増強することで、カリキュラムの充実化も図られている。資源・エネルギー使用量はキャンパス全体で前年比1.15%の減となっている。概ね5年間の推移を一覧表等で記載することや、中長期における目標値設定について、改正省エネ法の報告書と連携し、エネルギー消費原単位での目標値設定を検討することが望まれる。

環境報告書の検証は、収集された情報に対し、「環境報告書ガイドライン(2012年版)」を検証基準として審査を実施した。検証に際しては、九州工業大学が行った算定や集計の結果が適切であるかについて第三者の立場でチェック、判断したものである。

発見事実（評価を行って妥当であると判断された情報）と事実の確認

第三者検証では、前回の検証で発見された誤り、データの集計方法、大幅な設備変更の有無等事前に検証に際しての留意事項を検証計画に反映させて書類審査を実施した。検証に際しては、関係者へのヒアリングを実施し、検証した内容を表1【環境報告書検証記録】にとりまとめた。書類審査の結果を九州工業大学に報告し、表2【観察事項】についての事実の確認を行った。

指摘事項と対応

書類審査及び事前確認段階で2項目についての観察事項を見出したが、現地審査においては是正内容を確認した。今回の検証作業で検証の結論を導くために提供されたデータからその妥当性を確認した。その結果、環境への取組が示されている数値の信頼性については、算定の根拠を確認し不明瞭な箇所はなく適切な対応がされていた。

検証チームの結論

環境報告書の審査は、2015年12月10日～12月22日に一般社団法人エネルギーマネジメント協会の審査員により実施した。書類審査において確認ができなかった事項は、現地訪問において面談確認した。

また、環境報告書の審査手続きは、戸畑キャンパス、飯塚キャンパス、若松キャンパスの全組織を対象にして審査計画書とおりに実施した。審査結果は、観察された事実を含めて積極的な取組事項として評価できるもの及び改善すべき余地があるものを環境報告書の検証記録として表1、表2で報告している。

第三者検証の結果、当検証チームは「国立大学法人九州工業大学環境報告書2015」が環境報告書作成ガイドラインの要件に適合して作成されて一般に公正妥当と認められ、重要な情報を網羅して正確に算出・記述されているという結論に至った。

文書レビュー結果

一般社団法人エネルギーマネジメント協会 (TEL 093-873-1333, FAX 093-873-1334)

会社・事業所の名称	国立大学法人九州工業大学		
審査番号	2015001	報告書作成日	2015年12月25日

I. 環境報告書ガイドライン関係

現地審査前に環境報告書をレビューし、下記の該当する□欄をチェック。事前照会を要する事項は次ページに記入し、現地審査前に組織の回答を求める。また、現地確認を要する事項も次ページに記入し現地審査確認する。

I 環境報告の基本事項	文書レビュー結果
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	■適切 □事前照会要 □現地確認
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	■適切 □事前照会要 □現地確認
(3) 報告方針	■適切 □事前照会要 □現地確認
(4) 公表媒体の方針等	■適切 □事前照会要 □現地確認
2. 経営責任者の緒言	■適切 □事前照会要 □現地確認
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	■適切 □事前照会要 □現地確認
(2) KPIの時系列一覧	□適切 □事前照会要 ■現地確認
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	■適切 □事前照会要 □現地確認
4. マテリアルバランス	■適切 □事前照会要 □現地確認
II 「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標	文書レビュー結果
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	■適切 □事前照会要 □現地確認
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	■適切 □事前照会要 □現地確認
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	■適切 □事前照会要 □現地確認
(2) 環境リスクマネジメント体制	■適切 □事前照会要 □現地確認
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	■適切 □事前照会要 □現地確認
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	■適切 □事前照会要 □現地確認
(2) 環境に関する社会貢献活動等	■適切 □事前照会要 □現地確認
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	□適切 ■事前照会要 □現地確認
(2) グリーン購入・調達	■適切 □事前照会要 □現地確認
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	■適切 □事前照会要 □現地確認
(4) 環境関連の新技术・研究開発	■適切 □事前照会要 □現地確認
(5) 環境に配慮した輸送	□適切 ■事前照会要 □現地確認
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	■適切 □事前照会要 □現地確認
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	■適切 □事前照会要 □現地確認
III 「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標	文書レビュー結果
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	□適切 □事前照会要 ■現地確認
(2) 総物質投入量及びその低減対策	□適切 ■事前照会要 □現地確認
(3) 水資源投入量及びその低減対策	■適切 □事前照会要 □現地確認
2. 資源等の循環的利用の状況（事業エリア内）	■適切 □事前照会要 □現地確認
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	□適切 ■事前照会要 □現地確認
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	■適切 □事前照会要 □現地確認
(3) 総排水量及びその低減対策	□適切 ■事前照会要 □現地確認
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	□適切 ■事前照会要 □現地確認

「国立大学法人九州工業大学環境報告書2015」 第三者検証報告書

国立大学法人 九州工業大学
学長 松永 守央 殿



一般社団法人エネルギー・マネジメント協会は、国立大学法人九州工業大学（以下、九州工業大学と言う）が作成した『環境報告書 2015』に関して、独立した立場で第三者検証した内容を報告します。

1. 検証の範囲及び目的、対象

環境報告書の審査の範囲は、九州工業大学の戸畑キャンパス、飯塚キャンパス、若松キャンパスの事業活動、教育・研究活動を対象として、記載内容の正確性について独立した立場で検証した。

- (1)環境報告書に示されている環境パフォーマンスに関する情報について、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び社会的報告を含む記載内容の妥当性について確認した。
- (2)環境報告書にて、重要な情報が洩れなく開示されているかについて確認した。

2. 検証の手続き

検証メンバーは、九州工業大学との合意に基づき、次の手続きで検証を行った。環境報告書の検証プロセスは、九州工業大学から提出された報告書類に基づき文書審査及び現地検証による。なお、検証基準として、環境省発行「環境報告書ガイドライン（2012年版）」、GRIサステナビリティレポートニングガイドライン、環境省・環境報告書作成基準を参考とした。

- (1)環境マネジメントの概要：九州工業大学の状況、運用の概況及び収集されたデータを把握し検証した。
- (2)データの収集・集計および報告の過程：環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となる情報の収集プロセス・集計方法を検証した。
- (3)データの正確性：環境パフォーマンス指標について、サンプリングしたデータを根拠資料と照合し、整合性を確認した上で、データ・計算の正確性を検証した。
- (4)記載情報の正確性、重要な情報の網羅性：作成責任者への質問、サイトの確認、内部資料および外部資料を検証し、報告書に記載されている情報の正確性及び重要な情報が網羅されているかを確認した。

3. 結論

第三者検証の結果、『環境報告書 2015』では、九州工業大学の環境への取り組み情報を開示しており、“環境保全に必要な環境技術の研究・開発、教育、より環境によい地域づくり及び持続社会の構築への貢献等”の活動を紹介している。2012年4月に発足したグリーンイノベーション実践教育研究センターは、学内全体の“環境・エネルギーに関する教育・管理・研究”をミッションとしており、人材育成を含む教育研究ならびに環境改善・省エネルギー化を組織的に推進している。特に教育面において、グリーンイノベーションリーダー育成コースの開設により、次世代を担う環境・エネルギーに関するリーダー的人材を輩出するなど活動の定着化が図られている。さらに、学内教員のレクチャー、教員を交えたグループディスカッションなど参加教員を増強することで、カリキュラムの充実化も図られている。

各種取り組みの紹介は分かりやすく、具体的に紹介されており、読者の関心事に込んでいる。当検証チームは、「国立大学法人九州工業大学環境報告書 2015」が、一般に公正妥当と認められる環境報告書ガイドラインに照らして、重要な情報が網羅されており、正確に算出・記述されていると結論致します。

一般社団法人 エネルギー・マネジメント協会
検証チームリーダー 松田 真也